

平成二十七年 度

江戸川女子中学校 入学試験問題

国 語 (50 分)

(注意)

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 受験番号、氏名を解答用紙に書きなさい。
- 3 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 4 字数指定のある設問はすべて、句読点等を字数に含む。

一 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① からだのスnpボウを測る。
- ② スイテイ年齢四十歳ぐらいの女性。
- ③ 必要な情報をシユシヤ選択する。
- ④ 新聞ホウドウで、事件を知った。
- ⑤ 電車のシヤソウから外の景色を眺める。

二 次の意味を表すことわざを後から選び、記号で答えなさい。

- ① 用心に用心を重ねて、慎重にやること。
- ② 考えや見聞の狭せまいたとえ。
- ③ 思い切った行動や決断をすること。
- ④ 欲しいと思っても、手に入れにくいもののこと。
- ⑤ 見た目は立派だが、実際には何の役にも立たないこと。

ア	焼け石に水	イ	井の中の蛙大海を知らず
ウ	石橋を叩 たた いて渡る	エ	怪我 けが の功名 こうみょう
オ	清水 きよみず の舞台から飛びおりる	カ	高額 たかね の花
キ	絵に描 か いた餅		

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「書く」ことに加えて「読む」ことにも必要以上に時間をかけている人がいます。苦痛に思いながら我慢がまんして読んでいる。こういう人は、だれかに「この本は面白いよ」と言われて、勧められるままに読んでいることが多いものです。苦痛に感じながらも「我慢して読んでいれば面白くなるはずだ」と考えて一生懸命けんめいに読むですね。

もはや言わずもがなではありませんが、その本には苦しんでまで読む価値はありません。① そんなことをしても、頭に何も残らないので時間の無駄むだです。本とどうやって付き合うべきか。このあたりがわかると、どんなに難しい本であっても読むことが苦しくなくなるはずですよ。

ここからは「読む」とこと「時間の節約」について考えていきます。読書が苦痛という人がいますが、こうした人にはおそらく小学校での苦い思い出があるのではないのでしょうか。

読書感想文というのがその② 元凶げんきゆうで、お仕着せで課題図書を決めて押し付けるからみんな読書が嫌いになると思うのです。

フランスの小説家であり高校の先生でもあるダニエル・ペナックも、その著『奔放な読書』の中で、③ それは「拷問こうもんだ」と言っています。「子どもは、自分にとつての責め道具に上達しようという気にはあまりなれないものである」とね。

そもそも、本との出会いというのは縁えんだと思います。これを、「書縁」と言いますが、どれほど周りの人が「素晴らしい本だから」と褒めていたり、「現代人必読の書」などと言われていても、自分には縁がないと思つたら、その本は読む必要がない。

なかには「ベストセラーだから読んでおかないと」なんて感じる人もいますが、読んでみたらハズレだった、という経験は多いのではないのでしょうか。みんなが勧めるからといって付和雷同ふわらいてうしたり、時代から遅れるんじゃないかと歩調を合わせたり、そういう考えでする読書は時間の無駄になりがちです。

何かを知りたい、調べたいという気持ちがあつて本を探し求めたときに何冊に一回かの割合で出会えるのが書縁というものです。どうせなら血肉の間にしみ込んで心の栄養になるようなものを読まなければいけません。

小説のような娯楽こらくの分野であつても、これは同じです。^④これは同じです。ベストセラーになった人気小説をたまたま買つて読んでみたけれど、途中であまり面白くないと思つたら、全部を読まなくてもいいんです。

読みはじめから目が嫌いやがつて、二、三ページ読むことさえ苦痛という本もありますが、そんなときは大いばりで「ちよつと読んだけど、つまらなかつたから先は読まない」と放り投げておけばいい。何の引け目も感じることはありません。

実用書やビジネス書のような類は、必要なところだけ読んで、あとは読み飛ばせばいい。

最近健康や精神に関する本も割と人気がありますが、あれは一種、毛を吹ふいて疵きずを求めるようなところがあつて、心身に害のありそうな要素をほじくり返して読者に恐怖感を与えながら読ませることがあります。

自分に^⑤そういう悩みがあつてどうしても読みたいという人を止めるつもりはありませんが、飛ばし飛ばしに読んで納得いく部分だけ覚えておけば事足りるものです。

何か^⑥臭いと思つたら、途中でほつぱり出せばいいんです。

あくまでも読み手が主であつて、本というのは従であるべきです。

ややもすれば、本が主になつて読み手が従になるような、そういう読み方はよろしくない。

英知は我にあり。

読み手には「読まない^⑦」も「途中で読むのを止める^⑦」もあるのです。

本を図書館で借りて読む人がいますが、私は、^⑧本は買つて読むべきだと言つています。もし、借りて読んだとしても、その結果、自分にとって良い本と思えるものに出会えたときには改めて購入して手もとに置いてほしい。

理由は、その本を汚したいからです。

を表すような書棚ができてくるわけです。

ただ流行に乗つて次々と買った本を並べた本棚というのは、時間が経つと薄っぺらな印象にならざるを得ません。

そもそもこうした本は一度しか読まないはずですから、それをわざわざ本棚にとり置いておく必要があるのか、考えてみることです。

そして、お気に入りや並べた本棚の本は、けつしてだれかに貸し出すようなことをしてはいけません。

貸した本は、まず返つてこないものと思わなくてはなりません。自分が影響を受けた本が他人のものになつてしまつて、自分の手もとに残らないことになれば、それは人生にとって大きな損失です。

D、さらに言うなら、いくら自分が面白いと思つた本でも、それを読むことを人に強いるようなことをしてはいけません。

E本に対する興味というのは^⑩百人百様で、共通の感激などというものはないからです。他人の時間も無駄に使わせないように心を配りたいところです。

(林 望『時間』の作法』による)

いや、汚すというちよつと誤解を招くかもしれませんが、昔の言葉で「手沢しゆた本」という言い方があつて、これは、本を持つていた人が、その本の内容をよくよく味わい、または注釈を加え、もしくは不審点疑問点をマークしておくなどするために、何らかの理由で書き入れなどをした本のことを言います。

A、本を充分に味わい役立てるために汚すわけです。単に落書きなどをするという意味ではありませんから、どうぞ誤解のないように願います。この「手沢本となす」ということが、今こで言いたいことなのです。

書縁によつて面白いと思う本に出会えたとき、その本にはなにもすべてのページに感動するようなことが書いてあるわけではないでしょう。素晴らしいと思うところが何カ所か、B一つでもあつたからこそ、いい本と感じたはずです。

C、気に入つた箇所に出会つたら、何かしらの印をつけておきたいのです。

歌集や詩集、句集であれば、自分がいいなと思つたものに◎をつけたり、赤線を引いたり、あるいは筆記具が手もとになれば、ページの角を折つておくこともあります。あるいは散文を読んで「この描写が素晴らしい」と思えば、そこをマージングしたり、丸で囲んだり、付箋ふせんを貼つておいたりしたい。

その部分こそが、自分にとっての血肉となる部分なのでから、忘れないようにしておきたいのです。

そういうことによつて、本はほんとうに「活きた知識」になります。

人に借りて読んで、読んだら返してしまつた本に書いてあつたことは、その本を返したとたんに、^⑨知識もいっしょに忘却という棚たなに返してしまふに等しいのです。

なにはともあれ、自分にとって非常にためになったと思う本は、必ず座右に備えて置いておくことです。

自分の目に見える書棚に置いて、年中それが目に入つてくるように大切にすることすれば、また書棚から取り出して、何度でも読み返すことができます。それが少しずつ少しずつ増えていって、十年や二十年が経つたときに、その人の英知

問1 A 、 E に入れるのに、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ あるいは ウ なお エ いわば
オ ですから カ なぜなら

問2 ② 「元凶」とあるが、何の元凶なのか、次の A ・ B に適するように、指定の字数で本文中から抜き出さない。

A (二字) が、 B (二字) となる元凶

問3 ③ 「それ」とは何を指すか、文中の語句を抜き出さない。

問4 ⑤ 「そういう悩み」とはどのような悩みか、次の に適するように、本文中から五字で抜き出さない。

自分の の悩み

問5 ⑥ 「 臭い」について、「どこことなく疑わしい、なんとなく怪しい」という意味になるように、 に適することばを、ひらがな三字で答えなさい。

問6 二カ所の ⑦ に入れるのに、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 主義 イ 主張 ウ 権利 エ 義務

問7 ⑩ 「百人百様」と同じ意味を表す四字熟語を答えなさい。

問 8 本文の内容に合っているものを、次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分で買った本であれば、大切にする気持ちも生じるから、その本から得られることも、有益な内容が多くなる。

イ どんな本にも一カ所や二カ所はある、素晴らしいと思える点を吸収していくのが、読書の効用である。

ウ 読みたくもない課題図書を読まされて、読書感想文を書かされること
が、読書嫌いを作る大きな原因である。

エ 読んでためになったと思う本を、他人に貸すのは良くないが、そのかわり大いに勧めてあげるべきである。

オ ベストセラーになるような小説は、娯楽の要素が強いので、読んでも
ためにならないものが多い。

カ 本は楽しんで読むことが大切であり、つまらないと思ったら、たいして
読んでいなくても、読むのをやめて構わない。

問 9 — ①「そんなこと」とはどのようなことか、十～十五字で説明しなさい。

問 10 — ④「これ」とは、どのようなことを指すか、最適なものを次の中から
選び、記号で答えなさい。

ア 自分の精神の発達に役立つ本が、良い本であるということ。

イ どんな本でも、ためになりそうなところを探さねばならないというこ
と。

ウ 本を読むなら、自分が成長できるような本を読んだほうが良いとい
うこと。

エ 何か学びたいという気持ちで本を探していれば、良い本に出会える
ということ。

四 次文章を読んで、後の問に答えなさい。

「あたし、ちよつとタンマね」

となりの子にささやいて、鬼ごっこをやっている他の組の子とぶつかりそうに
なりながら、ひよいひよいと身をかわしつつ、ふたりのところまで飛んでいった。

コバヤシというのは大柄でナマイキなヤツで、乱暴ではないのだが、弱そうな
子をつけては掃除をおつつけるという悪いクセがあり、三年生のころ、その現
場をみつけるたびに、チヅルが飛んでいった。

「おばさんに、いつけるよ」

と牽制^{けんせい}しては、女子や気のよい男子に感謝されて、感謝されるのがいい気分
だものだから、ますますコバヤシ A をしていたのだった。

たまたまコバヤシとは近所で、近所といってもアキラのような近所でもなかつ
たが、盆踊りとかのときは同じ場所にくる程度には近所で、コバヤシの母親も町
内会の役員をやったりして顔見知りの B があり、そうなるとしゃばる
のがチヅルのお調子者のところなのだった。

「小林クン、掃除なら、自分でやんな！」

息をきらして駆けつけて、しのごの言わずにいうと、コバヤシはむうつとし
たようにチヅルをにらんで、

「おまえ、違う組じゃねえか。でしゃばんなよ、金魚！」

とかみつくようにいい、四年生になって、組が違ってからはずっかり忘れてい
た屈辱^{くじよく}のアダ名をいわれたことで、チヅルはいつきにカツとなり、

「あたしが金魚なら、あんたはなにさ、タコ八のくせに！」

と言い返してやったところ、木登りバーを背にして立っていた内田久義が思わ
ずのようにふっと吹きだし、おかげでコバヤシはそのアダ名のように、真っ赤
になった。

コバヤシはあがり性なのか、ふいに朗読を指名されたりするような緊急事態に
なると、すぐに真っ赤になってしまい、でかい図体のわりに真っ赤になるのがお
かしくて、さらにウケ口なので、ますますタコ八のように見えてしまうのだった。

問 11 — ⑧「本は買って読むべきだ」について、筆者がこのように考える理由
を次のようにまとめた。 に適するように、指定の字数で本文中か
ら抜き出し、初めの三字を答えなさい。

買った本は自分のものだから、(十五字以内) ことができるから。

問 12 — ⑨「知識もいつしよに忘却という柵に返してしまう」とはどういうこ
とか、「〜ということ」に続くように十字以内で説明しなさい。

「おまえ、なんなんだよ。組がちがうくせに、でしゃばんなよ」

と反論するコバヤシの声が、いつきに弱くなり、しかもそのセリフが、あいも
かわらず同じなのが、どんなときでもさっさといるんなセリフがぼんぼん出てく
るチヅルには、ちゃんちゃらおかしくて、

「組がちがっても、家はおんなじだよ。おばさんとカマタで会うからね。そした
ら、あんたが掃除をズルしたこと、いつてやるんだから」

ふん、と肩で息をしながらいつてやった。カマタというのは、近所の市場アー
ケードのなかにある八百屋さんのことである。

コバヤシはふーと詰まりぎみの鼻をならしながら、それでも母親に告げ口
されるのが恐ろしいのか、ふっとチヅルから目をそらして内田久義をにらみつけ
て、

「ふん。女子に助けてもらって、なさけねえやつ！ さっさとヨソに転校してけ
よ、転校生！」

と ① 捨てゼリフをのこして、だだつと駆けだしていった。

ざまあみろといい気分、

「タコ八の掃除なんか、やってやることないんだよ、内田クン」

正義の味方のつもりで内田久義をちらりと見ると、内田久義はついさっき、ぶ
っと吹き出したことを C しているように ② しょんぼりとうつぶしがち
のまま、

「いいんだ、掃除くらい。ぼく、いつも代わってたんだ」

と ③ いうではないか。

転校生だとすると、この四月から四年三組に入ったのだろうが、四月からずつ
と、あの図体がかいばかりで、そんなにおっかなくもないコバヤシのいうこと
をきいて、掃除を代わっていたのか、なんという弱虫なんだと、さすがのチヅル
もすっかり呆れて、D するような気分になり、

「代わってやることないんだって。そんなことやってるから、ズにのるんだよ」
とびしびしいつてやると、

「だけど……」

内田久義はしょんぼりしたまま、いいたいことをぐつと飲みこむように口ごもり、ふいに顔をあげて、女子みたいに長いまつげをばしぼしさせて、チヅルに困ったように笑いかけた。そうして、^④ なにか言いたそうに口をあけては閉じ、あけては閉じを三回くらい繰り返してから、へんに目をそらして、

「あとで小林クンの仲間に、からかわれないかなア。ヨソの組の女子に、助けてもらったって」

と小声でいい、困ったなアとつぶやいて、すうつと顔を赤らめたので、そのとたん、チヅルはカーッと頭に血がのぼってしまった。

味方のつもりで駆けつけたというのに、嬉しそうな顔もせずに、それどころか助けたのを E がるようなセリフをいわれて、チヅルはほんとうに、世界がひっくり返るほど呆れかえり、すぐには息もできないほどだった。

「あんた、気取ってて、やなやつ！ どうもって、ちゃんとお礼ゆえないのは、ひねくれてんだよ。ひねくれ者！」

チヅルは息もたえだえにそれだけをいうや、ふいに鼻の奥がつーんとしてきて、自分でもびっくりしてしまい、

「ばか！ だいつきらい。さつさと死になっ！」

と、それでも捨てゼリフだけはちゃんといわないと気がすまないので叫んでから、走ってその場を離れた。

中略

教室に戻り、ボールをネットにいれて黒板の横に吊るして、しょんぼりと自分の席にゆき、座ろうとしたチヅルは、なんとなく不穏なものを感じて、ふと顔をあげた。

みると、小丸スミコがじいっとチヅルを見ており、チヅルと目が合ったのを確認してから、ゆっくりと窓ぎわの席のレイコや、廊下がわの席のカズミのほうに目配せして、⑤ 笑った。笑うと、いまだにハメている銀色の歯列矯正器がきらつと光って、じつに意地悪そうに見えるのだった。

だし、その声に煽られたように小丸スミコがみるみる涙をうかべて、涙をうかべても鼻血は止まらないので、ぱつと上を向き、上を向きながら、えっえっえつと鳴咽しはじめた。

おりしもそのとき、ガラリと戸があいて、教科書を持った角田センサーが入ってきて、

「なにをやってるの、あんたたち！」

と叫び、一瞬のうちに状況を見てとったのか、

「保健班の班長が、すぐに小丸さんを保健室につれてゆきなさい。植野さんは机とイスを教室のうしろにもってって、ひとりで授業うけなさい」

とあいかわらず ^⑦ 言葉の最後に、！がつくような口調でいい、とたんに ^⑧ 教室じゅうにクスクス笑いがさざなみのように広がった。保健班の班長は、皮肉にもチヅルなのだった。

すでに授業がはじまり、しんと静まりかえった廊下を、鼻血をだして、上を向いているために、チヅルの世話になって歩かないわけにはいかない小丸スミコのブラウスの袖をつまんでひっぱりながら、チヅルはもうもう本格的に泣きたくなってしまった。

泣きたい気分なのではなく、泣きたいのだった。

三組の教室の前を通るとき、上を向いていた小丸スミコは、^⑨ 腐っても小丸スミコだけあって、最後の力をふりしぼるようにして、

「ほら、三組だよ」

とウソブき、チヅルはふと、この鼻血女に足払いをくらわせてやったら、さぞいい気持ちだろうと怒りに燃えつつ、それ以上に、三組の教室のどこかで、なにかの授業を受けているに違いない、色白の内田久義のやつを思いうかべて、

⑩ のあまり息がつまりそうになりながら、保健室のある一階にゆくために、「ほら、もうすぐ階段だよ。気をつけなよ」

と涙声で注意して、すん、とハナミズをすすりあげたのだった。

(氷室 冴子「いもうと物語」による)

ますます不穏なものを感じて、チヅルはくいと首をもたげて、ずんずんと小丸スミコのところまでゆき、

「なにさ」

といった。いわずにはいられない女子だけの状況というのが、あるのだった。

小丸スミコは頬杖をついたまま、

「植野さん、三組の転校生が好きなんだってね。小林クンが、教室にきて、どなったよ」

といい、その瞬間、チヅルの中でなにかが弾けて、はつとして教室内を見回すと、運動場にゆかず教室に居残っていた生徒は小丸スミコに限らず、何人もいたらしく、少なくとも連中が、ふたりのやり取りをじいっと ^⑥ 固唾をのんで見守っているのだった。

「転校生は、ピアノをならってるんだってさ。男子なのにピアノならってて、ばつかみたい。恥ずかしいったら。あはは」

と小丸スミコがいい終わらないうちに、チヅルはただちに反論していた。

「音楽の時間に、歌うときに入れ歯が光るの氣にして、ヒョットコ口してるオマールも、恥ずかしいよな。はははっ」

「なんだって！ もっぺん、いつてみな！」

「いくらでもいつてやらあ。やい、入れ歯！」

とチヅルがいうが早いか、小丸スミコが机を前につっぱって立ちあがり、立ちあがりざまにチヅルの頬を思いつきり引つ掻いてきて、まるでタワシで擦られたほどに痛くて、とっさのまに、

「ふざけんじやないよ、猫女っ！」

と叫びながらも、すぐに反撃に出て、チヅルは爪を伸ばしていないので、反射的に小丸スミコの顔めがけて両手をひらいて突き出し、ばちんと敵の顔を正面打ちした。

いつきに、このまま取っ組み合いだと F をきめて、思わずしらす腰を落としたところが、勝負はあつてなく決まり、小丸スミコはうつと鼻を押さえてしまい、指のあいまから鼻血が見えて、とたんに周辺の子がきやあきやあ叫び

問 1 A F に入れるのに、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 覚悟 イ 退治 ウ 軽蔑 エ 強み
オ 弱み カ 後悔 キ 迷惑 ク 反省

問 2 — ① 「捨てゼリフ」の意味として、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 立ち去りぎわに言い放つ、悪意を含んだことば。
イ 敵意をいなく相手を、ののしるときに言うことば。
ウ どうでもいい相手に対して、ののしることば。
エ 言いっぱなしで、相手に答えを求めていることば。

問 3 ⑤ に入れるのに、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア にやにや
イ にこにこ
ウ げらげら
エ けたけた

問 4 — ⑥ 「固唾をのんで見守っているのだった」の部分から感じられるものとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 親近感
イ 責任感
ウ 優越感
エ 緊張感

問5 — ⑦「言葉の最後に、！がつくような口調」とは、どのような口調か、

最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア お願い事を頼むような口調。
- イ てきばきと指示するような口調。
- ウ 何かに怒っているような口調。
- エ 厳しくしかりつけるような口調。

問6 — ⑧「教室じゅうにクスクス笑いがさざなみのように広がった」とある

が、その理由として、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア でしゃばりなチヅルが、先生にしかられたのが、いい気味だと思ったから。
- イ 角田先生が、保健班の班長とチヅルが同一人物だと、気付いていないようだったから。
- ウ さつきまで取っ組み合いをしていた二人が、仲直りするかもしれないと思ったから。
- エ チヅルが、罰として教室のうしろで授業をうける光景を、思い浮かべたから。

問7 — ⑨について

I 「腐っても小丸スミコだけあって・・・」の表現は、「腐っても」ということわざからきている。この に適することばを答えなさい。

II この部分から、スミコのどのような性格が感じられるか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 負けず嫌いな性格。
- イ おっとりした性格。
- ウ 友人思いの性格。
- エ せっかちな性格。

問8

⑩ に入れるのに、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 悔しさと憎しみ
- イ 恥ずかしさとうれしさ
- ウ 愛しさと恥ずかしさ
- エ あこがれと恥ずかしさ

問9 本文中に登場するチヅルは、どのような人物として描かれているか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 困った人がいると、黙って見ていられないが、早とちりすることの多い人物。
- イ 正義の味方を気取っているが、実はまわりから煙たがられている人物。
- ウ 頭の回転が速く、正義感も強いが、少々おせっかいなところがある人物。
- エ 正義感強いがおせっかいで、まわりの女子からは嫌われている人物。

問11

③「いうではないか」という表現からは、チヅルのどのような気持ちが感じられるか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 内田クンは、がっかりして口もきけないと思っていたのに、意外に元氣なのを安心する気持ち。
- イ 内田クンの発言が、自分が予想していた内容と、大きく異なることに驚きあきれの気持ち。
- ウ 掃除を押しつけられたことを、まったく苦にしていなかった内田クンのことを、たのしく思う気持ち。
- エ 掃除を押しつけられたことを恥じるでもなく、これからもやってあげそうな優しさを逆に心配する気持ち。

問10

②「しよんぼりとうつむきがち」とあるが、それはなぜか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア せっかく仲良くなりかけた、コバヤシとの友情がこわれるかもしれないと思ったから。
- イ あとでコバヤシの仲間たちから、仕返しをされるのではないかと思っただから。
- ウ 友人関係がうまくいかず、また転校することになるのではないかと心配になったから。
- エ 女子に助けてもらったことを、コバヤシの仲間にかかわれるのではないかと思っただから。

問12

④「なにか言いたそうに口をあけては閉じ、あけては閉じを三回くらい繰り返して」とあるが、それはなぜか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア あとで小林クンの仲間、に、からかわれるのが怖くて、なかなか言い出せなかったから。
- イ 遠まわしに、もう自分を助けなくてくれと言ったら、チヅルが怒りだすと思ったから。
- ウ 助けてもらったのに、そのことを困っているかのような発言をしようとしていたから。
- エ ヨソの組の女子に助けてもらったことが、みんなに知られるのが恐ろしかったから。

第 1 回入試 国語

6 ページ上段 4 行目

座ろうとしたチ ^誤ゾ ルは、なんとなく不穏なものを感じて、

↓
座ろうとしたチ ^正ヅ ルは、なんとなく不穏なものを感じて、

7 ページ上段 4 行目

ガラリと戸があいて、教科書を ^誤待 った角田センセーが入っ

↓
ガラリと戸があいて、教科書を ^正持 った角田センセーが入っ

第 1 回入試 算数

大問 1 (12)の図形に不備があったので、全員に得点を与えました。

受験番号

氏名

得点	
採点	点検

①
②
③
④
⑤

①
②
③
④
⑤

問 6	問 3	問 1
		A
問 7		B
		C
	問 4	D
問 8		
		E
		問 2
		A
	問 5	
		B

問 12	問 10	問 9
	問 11	

とらうこと。

問 7	問 2	問 1
I		A
	問 3	B
II	問 4	C
問 8	問 5	D
	問 6	E
		F

問 9
問 10
問 11
問 12

2点
3点